日本建築学会大会学術講演梗概集
（近畿） 2023 年 9 月

通行量と店舗構成から見た人の流れに関する基礎研究
－長崎県佐世保市中心部の商店街を事例として－

準会員　○中川陽香*
正会員　岡松道雄**
同　宋　俊煥***

三ヶ町・四ヶ町商店街　地方都市　店舗用途
中心市街地活性化　人流データ

1.　はじめに

1.1 研究の背景と目的

高度経済成長期以降、地方都市中心部の駅や商店街が衰退傾向を示す一方、郊外の大型商業施設が集客力を増すようになった。1998 年度以降中心市街地活性化法が制定されたが、全般的に衰退傾向を打開するには至っていない。地域の特性により実情や解決策は異なるであろうこともあり、今後も中心市街地の活性化がどの程度図られるかは不透明である。中心市街地の衰退は過疎化の問題に通じ、過疎地域では生活利便性や地域の魅力の低下により、さらなる人口減少を招くと考えられる。

中小企業庁より「にぎわいあふれる商店街」に選出されたことのある佐世保市の三ヶ町・四ヶ町商店街を 1.通行量調査 2.店舗の変遷、これらの観点から分析を行った。分析結果をもとに、対象地を例として地方都市の抱える問題、改善点と地方活性化を考える際の課題を考察する。

1.2 研究対象と方法

佐世保市の商店街は中小企業庁より「にぎわいあふれる商店街 77 選」に選出されている [1]。このことより、本研究では佐世保市の商店街に焦点をあてて調査を行った。

1. 通行量調査のデータ [2] 2. 住宅地図これらのデータを用いて商店街の変遷を追い、分析・考察を行った。新型コロナウイルスが通行量調査に大きな影響を与えていたため使用するデータを 2018 年以前のものまでと限定した。

分類項目とその定義を以下に示した。「空き」使用されていない店舗。「飲食店」客に飲食を提供する店舗。「小売店」最終消費者が商品を購入する販売店。「生活」日常、非日常的に生活に必要なサービスを提供する店舗。「娯楽」遊びや楽しみを提供する店舗。「大型商業施設」延べ床面積 3000 ㎡以上のところに店舗を集約したもの。「滞留空間」公園など屋外で人が滞留できる機能を持つ空間。「その他」住宅やビルなど他のものに分類されないもの、消費行動を目的としないもの。「分類不可」分類できなかったもの。

2.　佐世保市の商店街の特徴

2.1 通行量調査結果からみる商店街での人の流れの特徴

調査を行うにあたりあらかじめ定められていた通行量

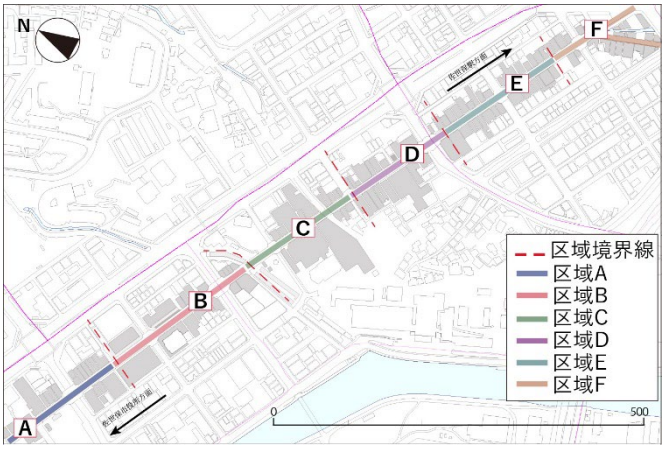

図 1　通行量調査地点と区域分け

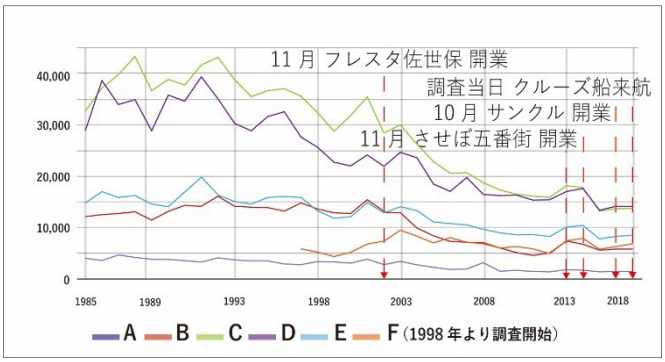

図 2　通行量調査　休日　地点ごと

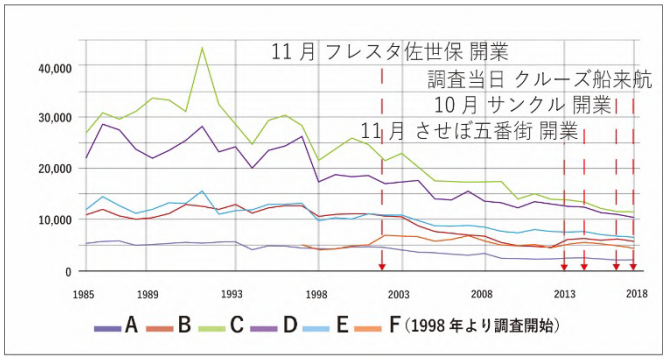

図 3　通行量調査　平日　地点ごと

調査の地点をもとに商店街を A~F の 6 つに区分する。通行量調査の地点と区域分けを図 1 に示した。図 2、図 3 は地点ごとに休日、平日の通行量を表すグラフである。

Basic Research on Human Flow from the Perspective of Passage Volume and Store Composition

Haruka NAKAGAWA

ともに 1992 年を境に全体的に減少傾向にあるが、各地点で変化率が異なることにより大幅に生じていた数値の差は縮小傾向にある。F 地点は他の地点と異なって休日は 2004 年、平日は 2003 年まで増加傾向にある。2013 年の時点では減少しているが、2014 年に僅かではあるが回復傾向にありこれは佐世保駅の南側に「させぼ五番街」という大型商業施設が 2013 年 11 月に完成したことが原因であると推測される。2017 年と 2018 年は、調査当日にクルーズ船が来航していたことが明らかになっているが通行量調査に影響は見受けられず、商店街では観光的側面での機能が低いのではないかと捉えられる。

また、商店街の中心から端の地点に行くにつれて人の流れが少ないことが明らかになった。この結果より区域 C に回遊の起点となる駅が存在することが人の流れをもたらす要因の一つであると考えたが商店街へのアクセス方法は電車だけではない。そこで次章では住宅地図を用いて商店街の店舗構成の変遷を分析した。

2.2 商店街の変遷

1985 年～2018 年までの住宅地図を用いて商店街の店舗変遷を追った。通行量調査をもとに数値が近いもの同士を結び付け、区域を C・D、B・E、A・F と 3 つのグループにまとめた。図 6.7 より通行量の合計が最も多かった 1992 年と、最も少なかった 2018 年を図 4 で詳細に分析した。

区域 AF では極端に「小売」が少なく、「飲食」は圧倒的に多い。区域 CD には「大型商業施設」が多く、区域 BE、AF にいくにつれ減少している。「滞留空間」の数と通行量、2018 年では「空き」の数と通行量に関係性は見られない。

1992 年から 2013 年にかけて、「小売」が大幅に減少しており、特に区域 CD、区域 BE で顕著であった。一方で「飲食」「生活」「その他」は増加した。区域 AF に関しては「飲食」の割合が「小売」を上回り、「空き」に関しても全体的に増加していることが確認された。

3. おわりに

本研究では、通行量と商店街の店舗用途の変遷というミクロな視点を用いて人の流れを分析した。佐世保市の商店街は地方都市の衰退が進む中でも比較的本来の目的を維持し機能していた。来訪者を引き付ける項目として、「小売」「大型商業施設」が挙げられたが、近年では「小売」が減少傾向にあった。また、商店街周辺の公共交通体系が整っているにも関わらず観光的側面での機能不足が見られた。集客力のある「大型商業施設」は中心市街地において、人の流れをもたらす肯定的側面が見られた。

【参考文献】

1) 中小企業庁ウェブサイト,
https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/shoutengai77sen/
(最終閲覧, 2023, 04, 02,)

2) 佐世保市商工会議所ウェブサイト
https://www.sasebo-cci.or.jp/pages/31/ (最終閲覧, 2023, 01, 16,)

区域 C・D

年	1992 年		2018 年	
分類項目	店舗数	割合	店舗数	割合
空き	2	2.9%	5	8.1%
飲食	5	7.1%	7	11.3%
小売	32	45.7%	21	33.9%
生活	8	11.4%	11	17.7%
娯楽	2	2.9%	4	3.2%
大型商業施設	5	7.1%	2	6.5%
滞留空間	2	2.9%	2	3.2%
その他	6	8.6%	10	16.1%
分類不可	8	11.4%	0	0%
合計	70	100%	62	100%

区域 B・E

年	1992 年		2018 年	
分類項目	店舗数	割合	店舗数	割合
空き	3	3.0%	5	6.0%
飲食	8	8.1%	12	14.5%
小売	52	54.0%	23	27.7%
生活	12	12.4%	19	22.9%
娯楽	2	2.0%	0	0%
大型商業施設	1	0.9%	0	0%
滞留空間	0	0%	1	1%
その他	10	10.3%	19	22.9%
分類不可	9	9.3%	4	4.8%
合計	96	100%	83	100%

区域 A・F

年	1992 年		2018 年	
分類項目	店舗数	割合	店舗数	割合
空き	5	6.2%	6	7.1%
飲食	20	24.7%	29	34.5%
小売	24	29.6%	15	17.9%
生活	10	12.3%	13	15.5%
娯楽	1	1.2%	0	0%
大型商業施設	0	0%	0	0%
滞留空間	2	2.5%	2	2.4%
その他	16	19.8%	17	20.2%
分類不可	3	3.7%	2	2.4%
合計	81	100%	84	100%

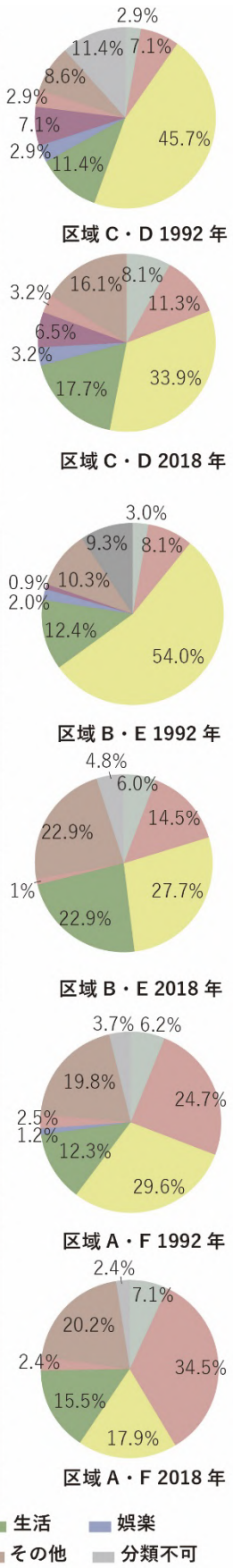

図 4 商店街店舗分類

*山口大学大学院創成科学研究科 Graduate Student, Department of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.
**山口大学大学院創成科学研究科 教授・博士（工学） Dr.Eng., Prof. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.
***山口大学大学院創成科学研究科 准教授・博士（環境学） Dr.Env., Associate Prof. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.